

授業科目名	舞台芸術実習 A	担当教員	石井 路子 山内 健司 杉山 至 尾西 教彰 児玉 北斗 木田 真理子 近藤 のぞみ 河村 竜也 田上 豊 深澤 南土実 岡元 ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2 年第 1 クォーター		
講義内容	<p>舞台芸術基礎実習で学んだ理論やコミュニケーションに関する学びを、上演芸術の実作を通じて、舞台と観客のコミュニケーション、舞台上で俳優同士で行われるコミュニケーション、技術制作スタッフとのコミュニケーションなどに応用し、体験的に検証する。舞台上で上演される作品がどのような意図をもって舞台上に現出させられるのか、その意図（演出プラン）について実作を通して学ぶ。またその意図を届けるために、俳優やダンサーの身体、現場（例えば劇場）の機構や装置、舞台美術、客席の位置等、またステージマネージングや広報などの運営も含めたプランニングが必要であることを、体験的に学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 舞台芸術基礎実習の到達目標を礎にして、他の環境でもそれを応用することができる。 2 舞台芸術における「演出」の役割と意義について具体的に述べることができる。 3 演出家とコミュニケーションをとることができる。 		
授業計画	<p>舞台芸術実習 A では、演劇やダンスなどのパフォーマンス作品を創作する際の演出について注目し、複数のプロジェクトに分かれて授業を行う。また、本科目は 48 時間の連携実務演習等にあたり、外部指導者を招へいすることから、時間割枠外での実施がある。</p> <p>内容については、以下の様な内容を取り扱うが、必ずしもこの順序になるとは限らない。授業内でも一定の制作時間を確保するが、進捗によっては各自が授業外で制作に取り組む必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演出家を知ることを知る — これまでの上演作品、演出の特徴など 2. 演出家とともに戯曲を読む — 演出家は戯曲の中で大切にしている点を確認する 3. 演出家の演出アイデアを聞く — 演出家はこの作品をどのように演出したいかを確認する 4. 場面を立ち上げる 1 — 演出家の指示の出し方に慣れる 5. 場面を立ち上げる 2 — 演出家の指示の意図を理解する 6. 場面を立ち上げる 3 — 演出家とディスカッションを積み重ねる 7. 場面を立ち上げる 4 — 演出家と立ち上がった場面の検証を行う & 演出プランとの統合性を図る 8. 演出家から衣装、美術、照明、音響に関するアイデアを聞く 9. 演出家からのアイデアをもとに、衣装、美術、照明、音響に関するプランを検討する 10. 稽古途中の作品を発表する 11. 演出家と発表を振り返り、改善点を確認する 12. 演出家と本番の公演に向けてのプランを立てる。 		

事前・事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・創作対象となる作品・戯曲については事前に熟読しておくことが必要である。 ・創作対象となる作品・戯曲の作家や時代背景などについて、事前に調べ、疑問点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。 ・創作対象となる作品・戯曲について、自分なりのプランを考案した上で議論に臨むこと。 ・創作の過程を記録し、毎時間提出すること。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の特性を考慮し、その都度指定する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト読解に必要となる参考文献をその都度適宜紹介する。
成績評価 の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・演出家と考案した演出プランに沿って、各役割に必要なプランを作成できる。 ・演出家と適宜コミュニケーションを図りながら、プランの修正や実現を実行することができる。 ・毎時間提出される創作過程記録（70%）、振り返りレポート（30%）
履修上の注意 履修要件	<ul style="list-style-type: none"> ・「舞台芸術基礎実習」を履修済みであることが望ましい。
実践的教育	<p>芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、外部指導者とともに、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。</p>
備考欄	<p>定員超過の場合は志望理由等をもとに選考します。</p>